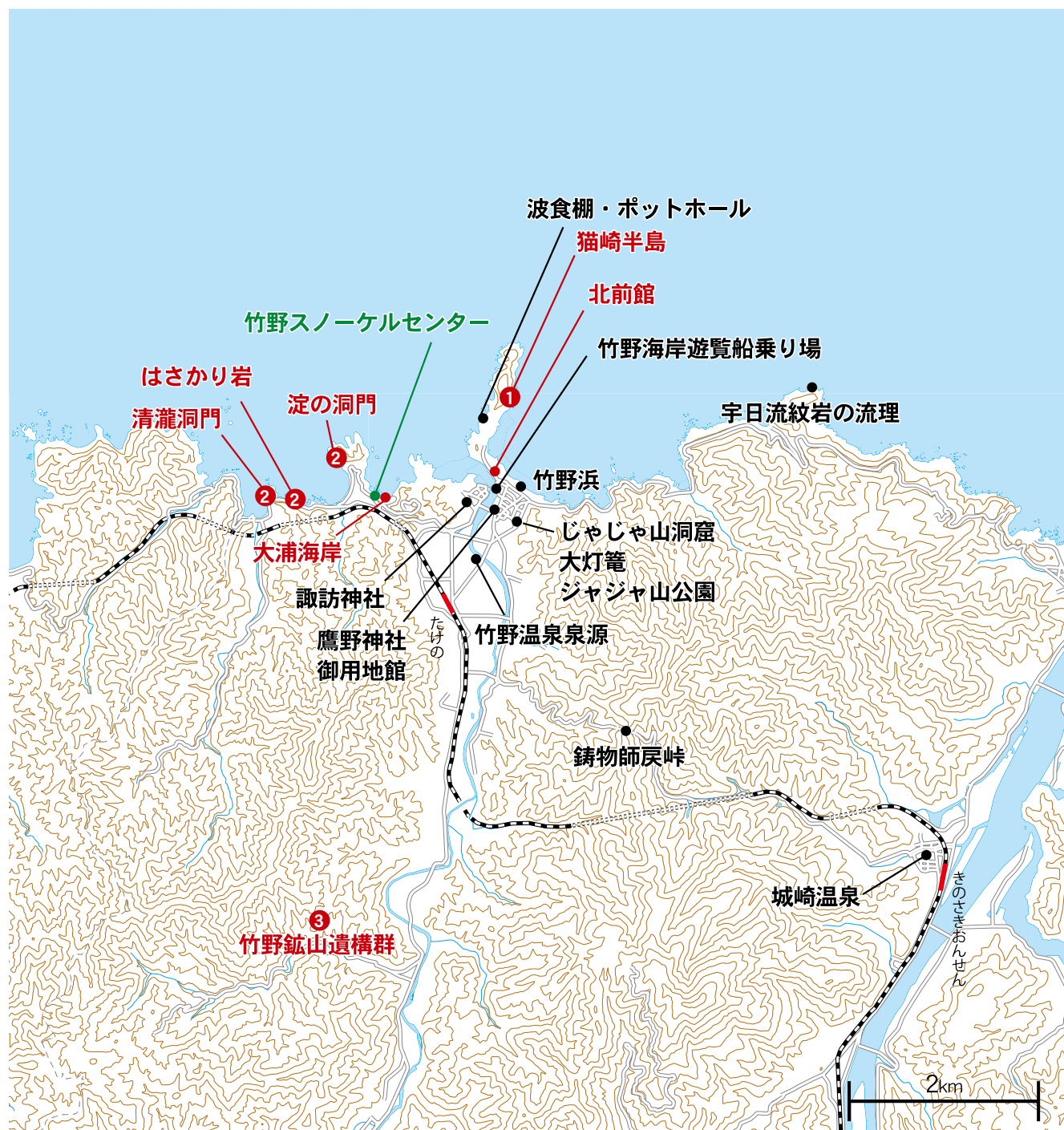


たけのかいがん たけのがわ 竹野海岸／竹野川 ジオサイトマップ



日本海と大地の歴史を示す 海岸の岩場

日本海に向けて細長く伸びた猫崎半島とその周辺の海岸地域です。猫崎半島や淀の洞門など、大陸の時代の花崗岩、日本海ができるころの地層、日本列島ができてからの火山活動の三者の関係が良く見られます。竹野海岸地域は北前船の寄港地としても栄えました。



ねこざき
猫崎半島

兵庫県豊岡市竹野町竹野 MAP P.35-①

猫崎半島は兵庫県最北端にあり、沖から見ると猫がうずくまっているように見えますが、東西の海岸道路から見るとキューピー人形が仰向けになっているようにも見えます。竹野海岸の岬や半島には波で削られた急な崖や岩場が広がっています。

一方、竹野浜や弁天浜などの入り江には、砂浜が広がり、海水浴場となっています。

現在は竹野川の河口は漁港となっていますが、江戸時代には嵐を避ける北前船の風待ち港でもありました。猫崎半島の東側は北西季節風の陰になり、暴風を避けることができます。岸壁の岩場には、北前船を繋ぐ杭を固定するため岩石にいくつか穴があげられています。

猫崎半島は陸続きの半島ではなく、賀島という島だったのですが、竹野川から運ばれた砂が波や海流の影響で集まり陸続きになったのです。現在は水のきれいな海水浴場として日本の「渚百選」にも選ばれています。

猫崎半島西側の海岸一帯は日本海の荒波で削られた波食棚になっています。波食棚の上には、さらに波と礫により削られたおうけつ甌穴（ポットホール）群が点在しています。

この甌穴群は兵庫県の天然記念物に指定されて直径が30～50cmのものが多いようですが、切浜海岸の北にある甌穴は直径が5m近くもある大きなものもあります。海面付近にある直径2～5cmの穴は甌穴ではなく、せんこうがい穿孔貝（イガイやカモメガイなど）によって岩場に削られてできた



江戸時代の竹野海岸絵図

穴です。甌穴は垂直方向の穴ですが、貝の生活痕の穴は水平方向のものが多くようです。

海岸の波食棚の上にはゾウ・シカ・イノシシなどの足跡が残っています。近くからゾウの歯が発見され、ステゴロフォドンという約2,000万年前のアジア大陸に生息していた種類であることがわかりました。

また、タニシやコイ・レンギョのいんとうし咽頭歯も見つかっています。太古の竹野は大陸の一部で、まだ日本海がなかった頃に、大きな湖沼があった証拠となります。

猫崎半島西海岸を北に行くと、水平方向に重なった礎岩・砂岩・泥岩などの地層の上に、垂直方向に伸びた割れ目がある岩石が重なっています。今から2,000万年前ごろの水中にたまってできた地層が隆起し、約300万年前ごろになって、その上に溶岩が流れてできたものと考えられています。ここで見られる岩石は流紋岩という岩石です。地層ができるときに作られた構造がたくさん見られます。



ゾウの足跡化石



猫崎海岸の甌穴群



猫崎半島の海食崖

淀の洞門とはさかり岩

兵庫県豊岡市竹野町竹野 MAP P.35-②

淀の洞門・大浦海岸

切浜海岸の北東には「淀の洞門」があります。幅約25m・高さ15m・奥行き40mの洞門は、断層部が日本海の荒波に侵食されてできたものです。花崗岩の上に火山活動でできた地層が重なっていることや、洞門の天井に断層があるのがよくわかります。洞門のまわりは風化しているのであまり近づかないようにしましょう。



淀の洞門

切浜海岸の東にある大浦海岸には環境省の竹野スノーケルセンター・ビジターセンターがあります。山陰海岸の自然環境の保護保全を目指して、学習や観察会が数多く企画されています。貴重な海の動植物観察・カヌー体験などもできます。



大浦海岸

はさかり岩

切り立った岩の間に大きな岩石が挟まっています。

上から落下して挟まれている岩石の直径は約4mもあります。この地方では挟まることを「はさかる」と言います。はさかり岩を作っているのは、日本海が開き始めるころの火山活動に関係してたまった岩石です。中に入っている白っぽい岩石は、その当時周囲にあった花崗岩が取り込まれてきたものです。



はさかり岩

せりゅう 清瀧洞門

浜須井港の上には清瀧神社があります。ツバキ・タブノキ・カシノキなどの照葉樹林が茂り見晴らしのよいところです。神社の下に2つの洞門ができています。海岸からは近づきにくいですが、天気の良い日ならスノーケルセンターからカヌーで洞門の景色を楽しむことができます。



清瀧洞門

竹野の歴史風土

■北前船

北前船は江戸時代中期から明治時代にかけて、大阪から瀬戸内海を通り、関門海峡を経て山陰、北陸、東北、北海道を廻った海上航路の廻船です。後には北海道まで航路を伸ばしています。

但馬海岸では柴山と竹野の船が多かったようですが、明治になって鉄道が普及すると陸上交通が中心となりました。北前船はヨットと同じ帆掛け船なので風が頼りであり、重心を下げるため

に空荷の時は船底に石を積んだといわれています。但馬各地の北前船寄港地には「来待石」と呼ばれる、出雲地方特有の砂岩が神社の狛犬として残されています。^{たかの}鷹野神社には来待石で造られた方角石（方角を示す石碑）も残っています。ちなみに竹野では青井海岸に多い「青井石」が使われ、山陰各地に運ばれていたようです。

北前船は「北前館」で、北前船主の邸宅は「^{おようじかん}御用地館」として見学することができます。



北前船



来待石で造られた狛犬や灯篭



方角石

■おしあげ料理・ズワイガニ

北前船が竹野に帰ってきた際、航海の無事を祝ってふるまった「おしあげ料理」という郷土料理もおすすめです。竹野でとれた食材を使用し、竹野で作られた調味料で味付けされたオリジナルのご当地料理。赤いか（ソデイカ）を使ったちらし寿司の他に、イカそうめんや地魚の煮付け、サザエといった海の幸、山の幸がめいいっぱい。宿ごとに違った料理メニューが楽しめます。

日本海で獲れる代表的なカニがズワイガニですが、地域によって間人ガニ・津居山カニ・柴山ガニなどと呼ばれ、タグが付けられています。ズワイガニは水深200～600m付近に生息していて底引き網で獲りますが、資源保護のため小型のものは禁漁で、漁期も11月～3月に限られています。

■誕生の塩工房

竹野は江戸時代、出石藩の領地であり、米の年貢の代わりに塩を納めていました。竹野浜では自然学習の一環として海水から塩ができるまでを実体験できます。地元では「美味しい塩」として家庭料理に使われています。



竹野おしあげ料理



誕生の塩工房

竹野鉱山遺構群

兵庫県豊岡市竹野町 MAP P.35-③



竹野川沿いには、鉱山周辺に発達した集落があります。金原、銅山などの集落名があります。

竹野鉱山はたけのこ村キャンプ場の近くにあり、1948（昭和23）年まで主に金を採鉱していました。現在、鉱山の遺構が残っていますが、山の方には縦穴も残っているようで、単独での見学は危険です。

エリア&ガイド情報



竹野スノーケルセンター

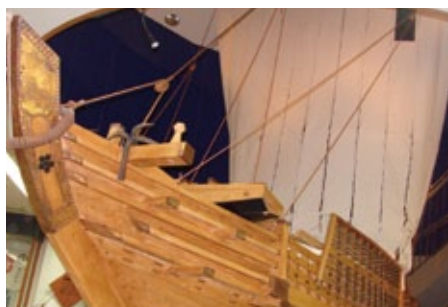
竹野海域公園にあり、日本で最初に誕生した環境省のスノーケルセンター。通年開館しており、自然観察の拠点施設として注目を浴びています。初夏から晩夏にかけては、神秘的な海中体験ができるスノーケルをする人たちににぎわいます。館内には竹野海域公園を中心とした海の生き物たちの生態などをパネルなどで紹介しています。

〔所〕 兵庫県豊岡市竹野町切浜 1218

〔料〕 入館無料 〔時〕 9時～16時45分

〔休〕 水曜（4～9月は無休）、年末年始

〔問〕 0796-47-1932



北前館

北前船資料室では、地元の人が建造した「天神丸」の1/6模型の他、船鑑札、船タンス、磁石、遠眼鏡、船絵馬などを展示。新鮮魚貝が味わえるレストランや、日本海を一望できる温泉施設「誕生の湯」も併設しています。目の前には竹野浜、猫崎半島の美しい景色が広がります。

〔所〕 兵庫県豊岡市竹野町竹野 50-12

〔料〕 入館無料 〔時〕 9時～21時

〔休〕 木曜（7～8月は無休） 〔問〕 0796-47-2020